

## 内部評価の結果

## 【評価結果】

## 事業を実施すべき

## 【評価理由】

本事業は、老朽化や狭隘化が進んだ市立八幡病院の移転・建て替えを行い、施設面の課題を解消するとともに、市民の安全・安心を守る病院として求められている役割に応じて病院機能の充実を図る事業である。

- 事業の必要性、有効性については、
  - ・ 八幡病院は、救急医療、小児医療、災害医療の政策的医療を提供する病院として市の地域医療において重要な役割を果たしているが、施設の老朽化・狭隘化が進み、一部が新耐震基準を満たしていないといった施設面の課題があること。
  - ・ 今回の建て替えにより、施設の老朽化や狭隘化、新耐震基準を満たしていないといった課題が改善され、病院機能を充実できるとともに、利便性を向上できること。

などから、本事業の実施は必要なものであるとともに、課題を達成するために有効な事業と判断している。

- 事業の経済性・効率性については、
  - ・ 事業手法について、設計施工一括発注方式（基本設計分離型：実施設計と施工の一括発注方式）を採用することにより、建設コストを縮減できると同時に、工期短縮が可能となること。
  - ・ 収支見通しについては、新病院の開院当初は、新病院への移転や現病院の用途廃止に伴う費用などが一時的に生じることから、単年度実質収支は赤字になる見込みであるが、開院数年後には、新病院の本格稼働により、単年度実質収支の黒字を確保できる見通しであること。

などの効果が認められると判断している。

以上、本事業の必要性や有効性、経済性・効率性が認められることから事業を実施すべきと考える。

なお、事業実施にあたっては下記の事項に留意して行う。

- ・ 新病院の収支状況に留意し、できる限りイニシャルコストの縮減に努める。
- ・ 国庫補助の活用については、国の補助の情勢を見ながら、効率的に活用できるよう検討する。

## 【対応方針案】

## 計画通り実施する